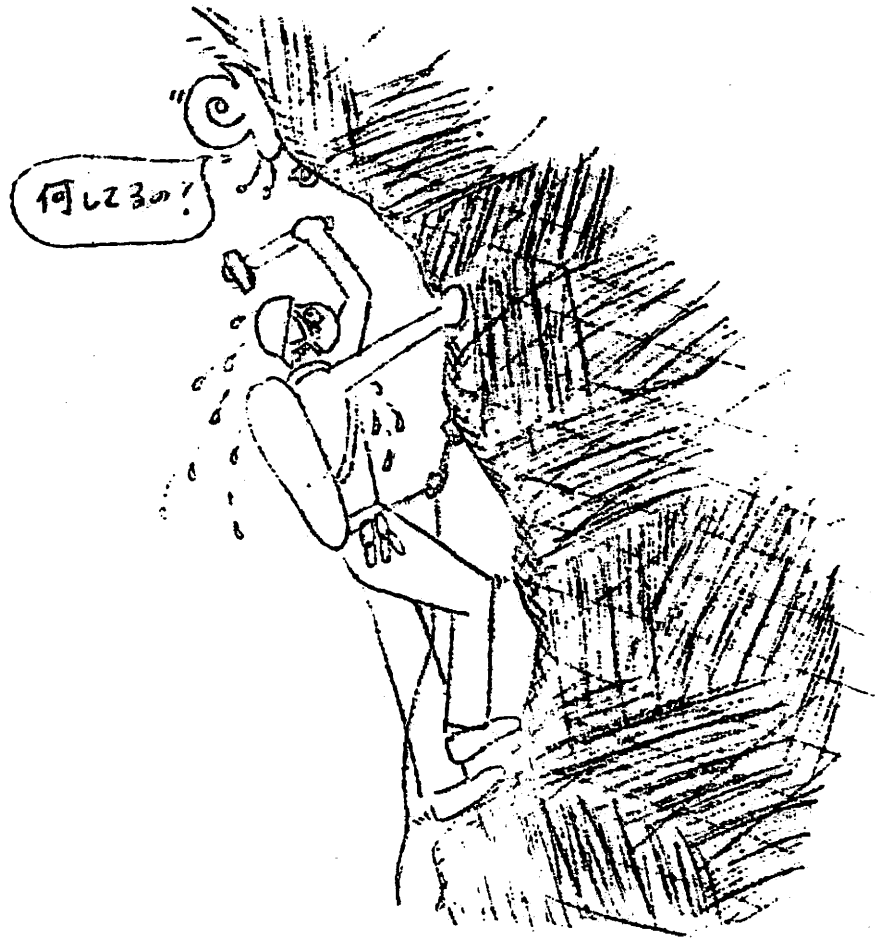


'80

秋山個人山行報告書



信州大学山岳会

目 次

1. 明星 PVI 南壁ダイレクト	P. 1~2
2. 北岳ハットレス	P. 3~4
3. 甲斐駒赤石沢, フラジ A・B	P. 5~6
4. 中アの沢 (中田切・大田切)	P. 7~8
5. 中アの沢 (中御所谷 (滝) 沢)	P. 9~10
6. 奥鐘山・中央ルンピ	P. 11~12
7. 甲斐駒摩利支点	P. 13
8. 甲斐駒赤石沢奥壁・左ルンピ	P. 14
9. 唐沢岳幕岩	P. 15
10. 北山東壁・緑ルート	P. 17~18
11. 戸台川幕岩試登	P. 19~20
12. 明星岩登り大会	P. 21~22

明星P₆南壁 タイル外ルート登攀

10月2日
3日

L. 山本雅大 (4)

岩村孝之 (2)

10/2 ① 松本 ~~小屋~~ 小滝 - 2Pまで エスイ岬 (小屋)

10/3 ② P₆ タイル外取付 — 7P 登攀 で中央バンド —
7:00 12:00

— 左岩稜 (中央バンド外ルート変換) — 2P (タイル十三)

— P₆ の頭 — 5.6 の3ルより深き口にて下山.

ルート図は 日本岩場参照

(感想)

高度感が素晴しく、眺めも一変していて、楽しめた。 仲々 素晴らしい岩場と思う。

A₂ の箇所はかなり 什うしい ところが多かった。
また A₁ の箇所が ところか 抜けていて、フリーを強要する
という面でも 難行。 この岩場 特有の ところの 高さ
大昔の 思いもある。 しかし 7P に なる と 5 時間

もかかっているのだが、ルン、と、ウツニ
以前のボク(岩)の人工等技術不足であつた
痛感、反省をうけた。

アイルクトの6.7P目(中央バンド手前)は、ルン
の仁テイクが少しかかっている。

我々も互にルンE取り過ぎ、核心部を右に
かき過ぎて中央バンド左端に出た。

5Pまでは、一直線で互に向合っている。

次回行く人は、是非、この核心部をかき
取ってほしい。

(記 岩村)

(余ったので作文します)

作題「岩登りの後で」

岩登りを終え、ボク(岩村)と山本(以下Y)は、その日
新潟の新津市まで足を伸ばし、街でビールと日本酒を
飲んだ。新鮮な魚も心ゆくまで食べた。ホクホク気分
で海岸の砂浜に横になった。近くに聴く潮騒と
夜空に輝く天の川が、登攀の際の緊張感を優しく解きほ
かす。

ロマンチックな夜である。「これで相手がわかるか……」

思っている様がない。現実が厳しい。ボクも種に属する
ものはY社なのである。

いよがしな目で、目をむき、悔を言いました。

★北岳バットルス (9/27 ~ 9/30)

L. 川原 M. 茂呂 丸山 田辺 細川 中根

9/27 ② 伊那 ^{バス} 北沢峠 — 広河原 — 大樺沢二俣 (バットルスは雪)
9:10 11:20 1:10

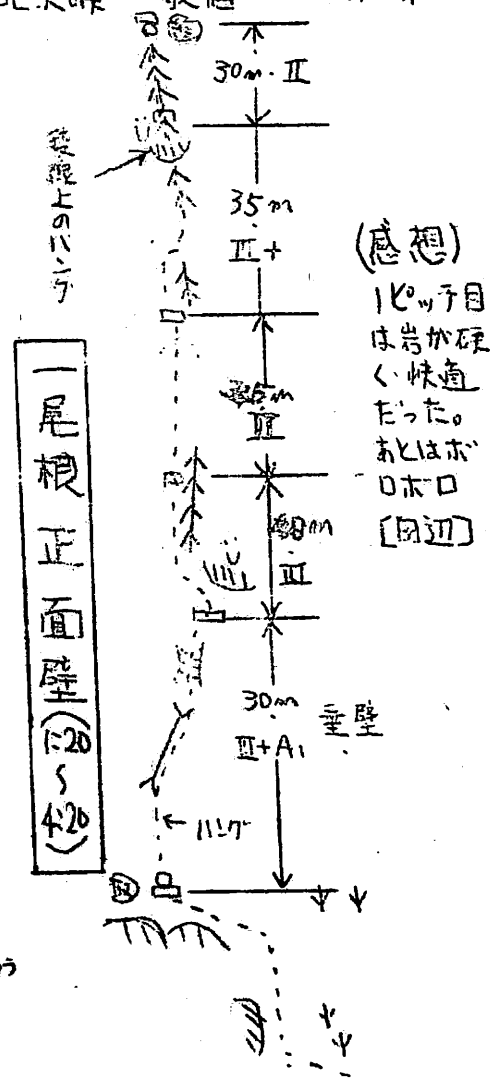
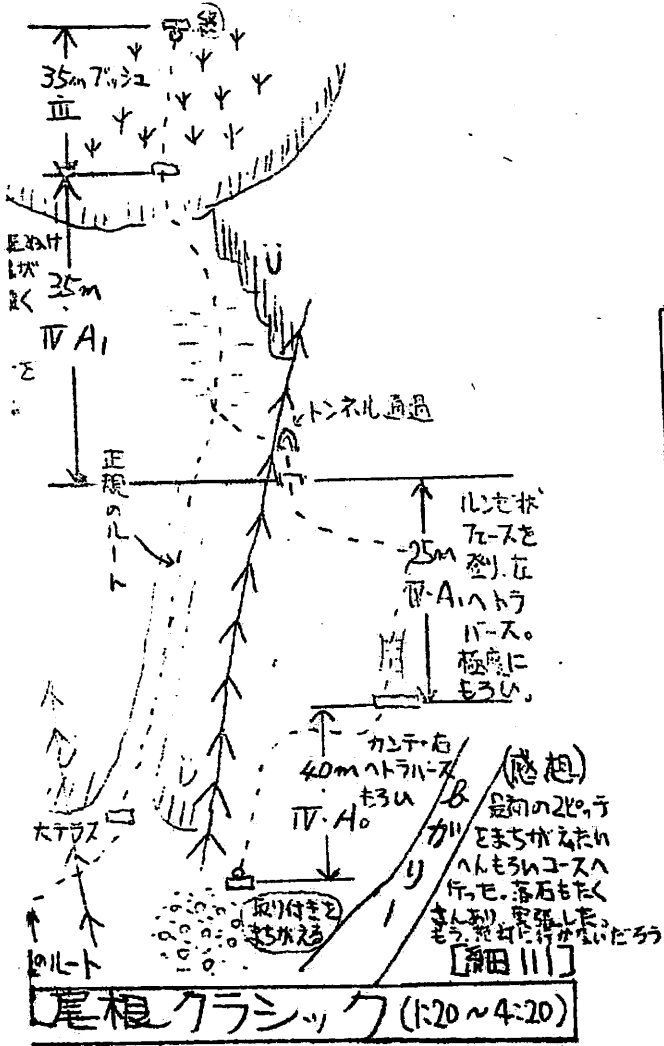
9/28 ① 二俣(B-C) — { Cガリ—大滝(川原・細川) } — { 二尾根クラシック(川原・細川・茂呂) }
8:10 { Bガリ—大滝(丸山・田辺・茂呂・中根) } { 一尾根正面壁(丸山・田辺) }

(川原・細川・茂呂・中根) — 北岳 — 二俣(B-C)
(丸山・田辺) 4:50 5:50

9/29 ① BC { 下部ピラミット ~ 四尾根主稜(川原・細川) }
 { 下部フランケ ~ 四尾根主稜(丸山・田辺) }
 { 上部フランケ ~ 四尾根主稜上部(茂呂・中根) }

— 北岳 — BC

9/30 ① BC(二俣) — 広河原 — 北沢峠 — 教宿 ^{バス} 伊那



甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁 10/3~6

L、川原 修 (A-Ⅲ) 田淵 潔 (A-Ⅱ)

3日 ○イナ → 北沢峠 → 仙水峠 → 本峰 → 黒戸尾根ハ合
 12:30 13:20 15:30

4日 ○ハ合岩小屋 → Aフロント登はん → 岩小屋

5日 ○ハ合岩小屋 → Bフロント登はん → "

6日 ◎ 往路を下山

10/3 岩小屋から派生している尾根を下降。Aフロントの頭からハ合岩側を登って、スラブ下の岩小屋に降り立つ。スラブを200m程度上し、右端のバンディに上がる。約2h

○ 赤駒嶽ルート 取付 8:00 終了 14:30

1P目 Top 田淵 (IX下ツルベ) 取付の小さなクから左上するクラック人工で。取付からも見える枯れ木のあるバンディ

2P目 クラックから大きなシェードルにぶら下がる。

3P目 シェードルをひたすら直上。

4P目 V字クラックを左から越える。

5P目 シュのほえた大まかな岩から容積的なスラブ。

6P目 恐竜カニテの側壁をクラックに沿って登る。カニテを回り込んであたりぞろいミジビシ。

7P目 恐竜カニテを直上。途中にX字クラックをまたぐ。

8P目 シュから人工スラブ。

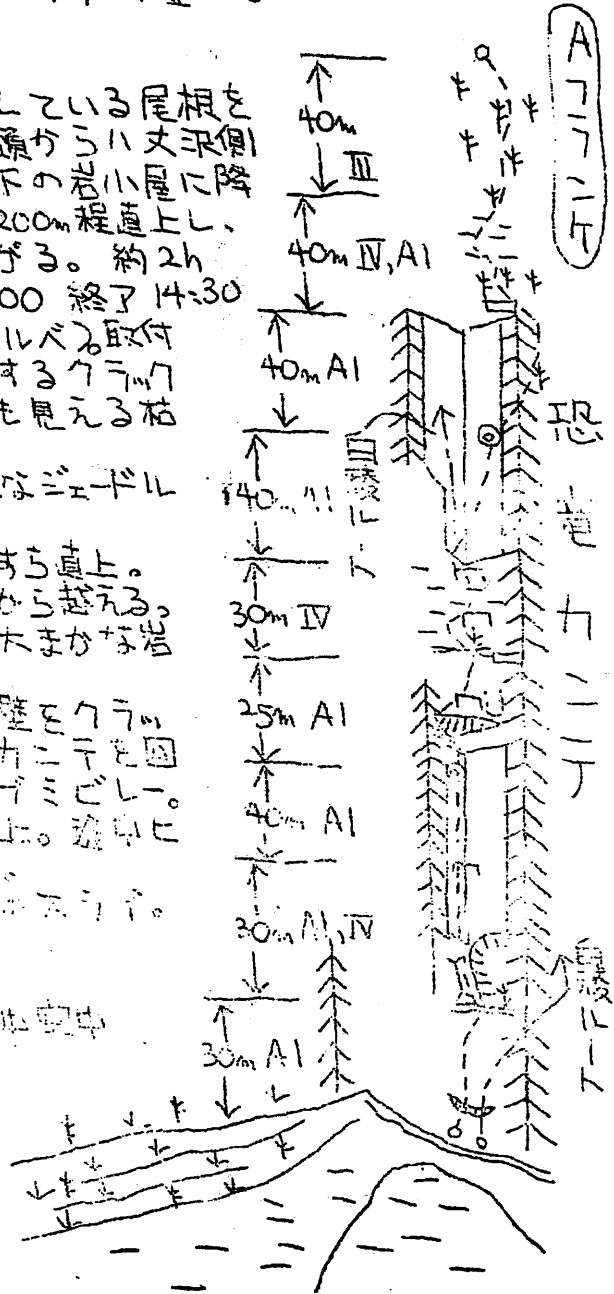
9P目 直上。

感想 7P目までには途中途中で

けん重 (15kg) が必要だった。

イヤになった。

(田淵)



10/4 A7ランゲの頭から昨日とは逆の方向にルニゼを下降。
 B7ランゲへは赤石沢本谷すぐ近くの1見登りやまそう
 なルニゼ状の風化した岩から取付く。

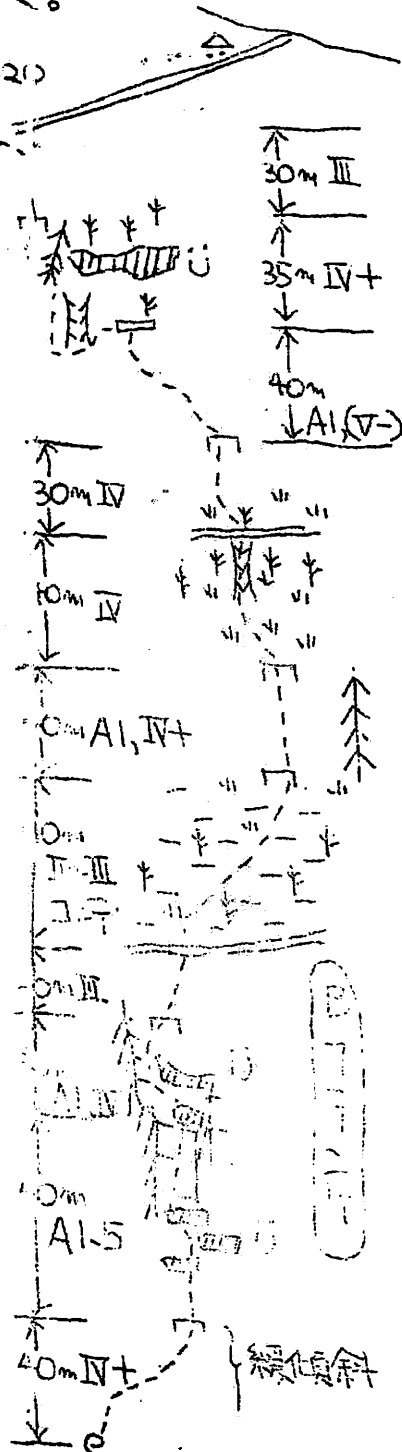
○ 赤蜘蛛ルート 取付 7=20 終ア 13=20

- 1P目 TOF川原(以下ツルベ)で悪いフリーからバニドに上がる。=Q=
- 2P目 三段ハンゲを越える。それぞれ1m程かいてして、3つ目のハンゲでピンの遠いヶ所があり、ハンマーでいっかけてすり上がる。
- 3P目 バニドを回り込み、人工で直上

- 4P目 フェースのようなスラブ。
- 5P目 コニテ。緩傾斜帯。
- 6P目 快適な人工で直上。最後の1本のトラバース(IV+)が高度感がある。
- 7P目 悪い取付から人工3m
- 8P目 スラブから悪い取付。
- 9P目 出だしに2m程はピンをなく、トップにフォックハンマーのピンをリスにいっかけてAIにする。
- 10P目 多い草丈から左下の多い草丈へ傾いて移る。そして鎖がない小枝をつかんで風化した岩を回り込み。
- 11P目 プレミ。1合巻小屋まで。合巻らしい所にでる。おん

○ 時間がある。ていたのでお昼時に向う。が、ンダーのスラブが変なたのど1Pickのみ登る。唯一の危険した悪くないフリーのみのピク。30m IV Top 1原

○ 感想 体力不足を痛感した。ハンマーを。が、この曲芸は楽しかった。だが、使わずに登れる技術が欲しい。(田が子)



中央アルプスの沢(中田切川, 大田切川)

・メンバー L, 田辺 丸山

・10/3~5

10/3 ① 伊那 — 養命酒工場付近 — 砂防ダム
9:30
—— B.S
18:00

10/4 ① B.S — 空木岳 — (池山尾根) — ^{バウテボ}地奥
7:10 10:00 14:30
—— 発電所取水口 B.S
16:10

10/5 ① B.S — 木層殿乗越 — 松尾岳 —
6:50 11:45 14:30
(松尾尾根) — 松尾大橋 — 伊那
17:50

(感想) 今回の山行の核心部は、中田切川上部であった。
中田切川は高巻が悪く、最後の200mの高
巻には2時間ぐらいかかった。その日は積線
に出らぬ、リッジ上の岩棚にビバークした。大
田切川は最初の1時間ほど滝が適当にあっ
たが、あとは単調な河原歩道に終わった。

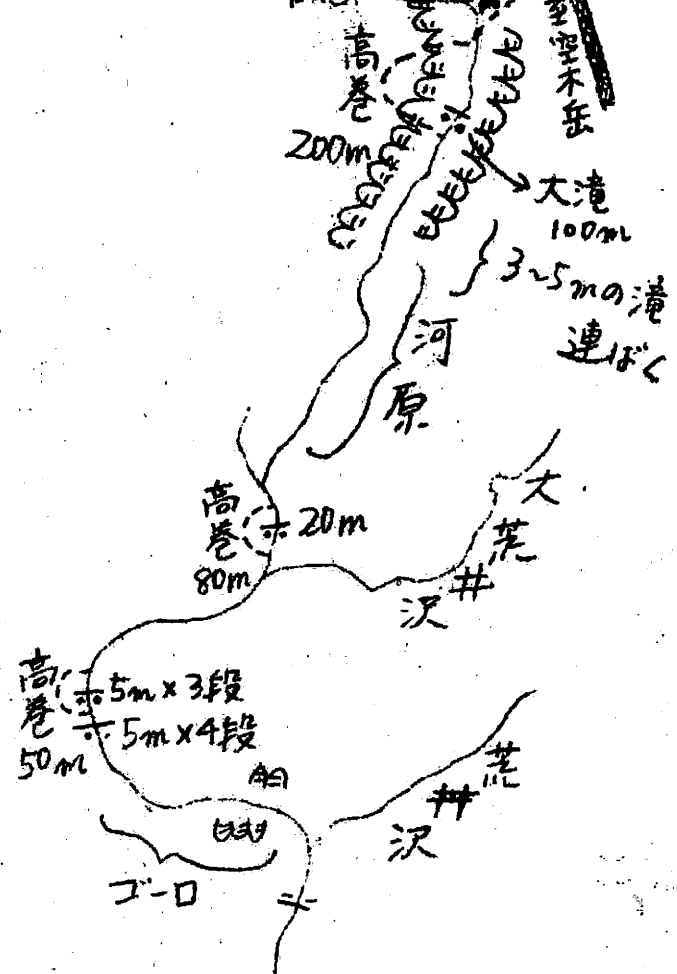
(田辺)

溯行図は次頁 →

《大田切川》



《中田切川》



★ 中了 [中御所谷・滝、沢] 溯行

上、川原 M. 関、茂呂、澤田、細川

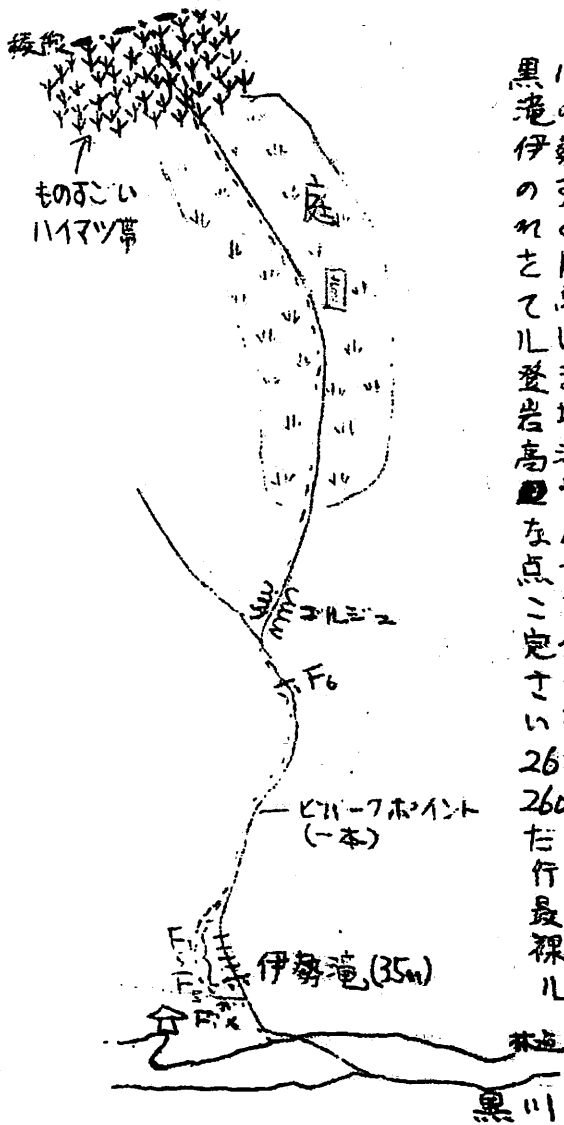
10/10 伊那 駒ヶ根 三ツ平 中御所谷 溯行 一千貫敷 (12:30)

— 前岳 沢下降 — 黒川左岸 1910m に 鼻宮 (もう少し下の林道終了) (点には小屋がある) (4:10)

10/11 T.S. 一 滝、沢 溯行 — 稜線 (2685m) — 西駒山荘 (11:30)

内のかや (2:40)

◎ 三滝の沢 溯行 図 (6:45 ~ 11:30)

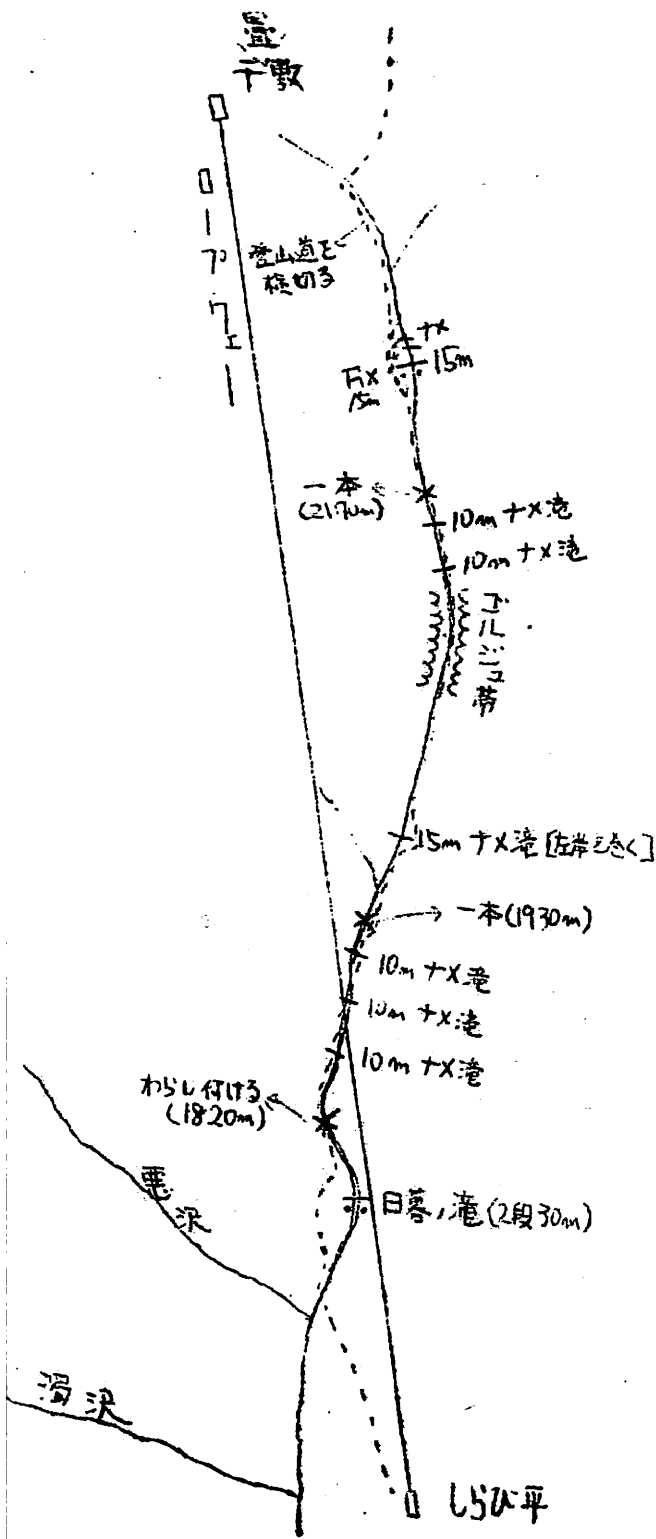


黒川から滝、沢にはいるとすぐに伊勢滝の雄姿が見られる。

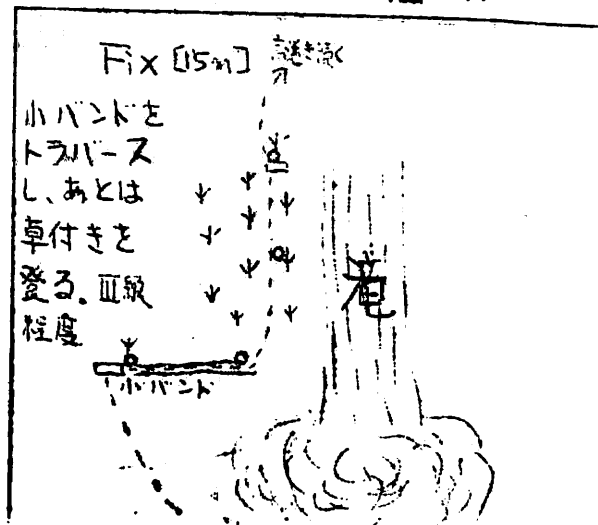
伊勢滝(一段35m)直下の水しぶきはものすごく、登れない。右岸の小沢を50mくらい登り、そこから滝側への踏み跡をトラバース。さらにF2~F5も続け高滝く。なお、この小沢入口は、又ル又ルしているので注意必要。また、もう少し登ると、もちろん、草の付いたレンゼ状の岩場が出てきたので、Fix(5m)を張った。高滝いた後の沢はたいしたことなく、淵やがて沢は左に折れ、F6が現れる。なんなくF6を高滝いた後、2150m地点で、沢は右に折れる。(左には支流有)ここから、せまいゴルジュ帯となるが、完全溯行可能。これより、次第に沢が小さくなり、2240mくらいで、庭園にはいる。2270mで一本(め5は3足踏う)。この先、2600mくらいまで、幻想的な庭園風景。2600mより稜線までは、標高差100程だというのに背丈以上のハイマツに行く手とはばまれ、ブッシュの中をラッセル。最後のハイマツのブッシュ帯は、わずかの裸地をうまくつなぎ合わせて、左よりにルートをとっていくと、比較的楽。

庭園の美しい沢だった。(細川)

中御所谷溯行図 (7:50 ~ 12:25)



シラビ早から登山道を15分程
行くと中御所谷と懸沢との出
合いに着き、眼前に日暮、滝が
見える。日暮、滝直下で地下足袋
を付け、溯行開始。日暮、滝は
時間を食いそうだったので、右
岸のブッシュ帯を高巻く(踏み跡有)。
日暮の滝上部(1820m)で「わらじ」
をつける。10m + X 滝を本をな
んなく越し、1930m地点で一本。
紅葉かとても美しい。
次の15m滑滝は、右岸のほうが
簡単そうに見えるが、上部で又
ル又ルして悪い。左岸に行くべき。
(ここで関さん右岸をいき、わらじはずして背
落。辛いけががなく溯行続ける。)
次にゴルジュ帯にはいり、10m
滑滝2本を越して、2170m地点で
一本。ゴルジュ帯通過後、~~2250m~~
で15mの滝が現れ、右岸にFix
15mはり。その後も続けて数段の
滑滝を高巻く。ここを越すと、沢も
小さくなりやがて2つに分かれる。
左の沢を行ったが、枝沢がたくさん
出て、やがて、登山道も通過。2500
mぐらいまで溯行したが、これより、
小尾根にはいり、20分程で千畳敷
に出る。大きな滝は2つだが、多くの
滑滝を有し、明るい沢なので、楽
しい溯行ができた。(細川)



奥鐘山 中央ルンゼ

S55 10月9日 ~ 11日

└ 山本雅大 (IV) 藤井卓也 (II)

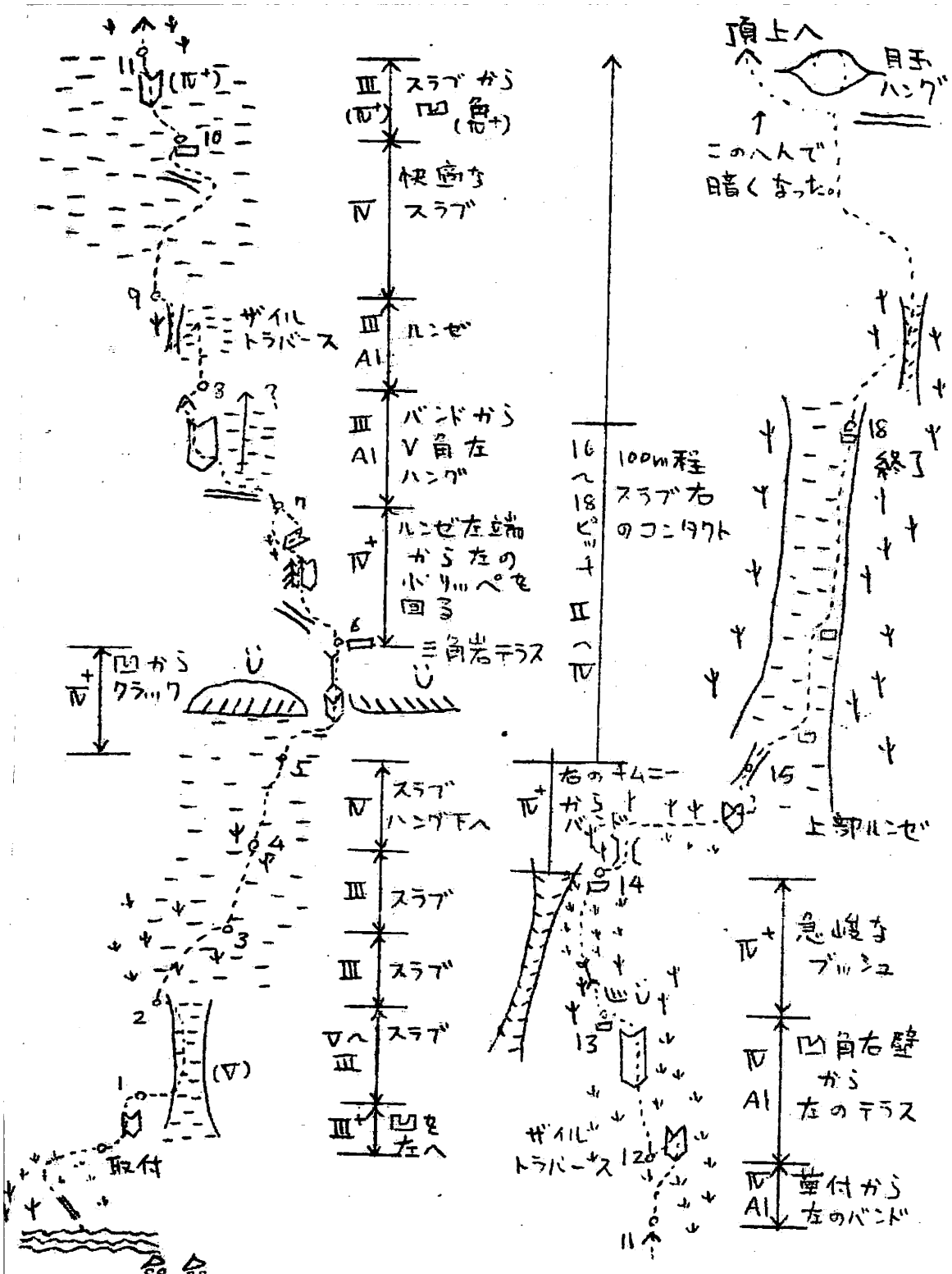
- 9日 ① 松本 ~~++++~~ 椿平 (3:30) — 岩小屋 (4:20)
- 10日 ①/② 岩小屋 (6:00) — 取付 (6:30)
— 三角岩テラス — 上部ルンゼ
(14:30) — 終了点 (15:30) —
目玉ハング (16:30) — 頂上 (18:00)
- 11日 ② B.P. (6:00) — 祖母谷池 (8:30)
— 椿平 (9:00) ~~++++~~ 松本

ルートは取付さえ正しければ、そうは
まじがわずに行ける。ただし、7pitch目
及び 15pitch目では注意を要する。

とにかくピッケルが出る程スラッグが
連続したルートである。しかし、上部の
木登りと目玉ハングから頂上迄は実に
苦しい。またピッケルは少ないながらも、6枚程
持って行けば足りるであろう。

下降は頂上より尾根の南側をトラ
バースするようピッケルダウンを繰り返す。
三重山稜のところもあり、また踏跡は少な
いので苦労する。

後は鐘釣の温泉で泳いでおしまい。



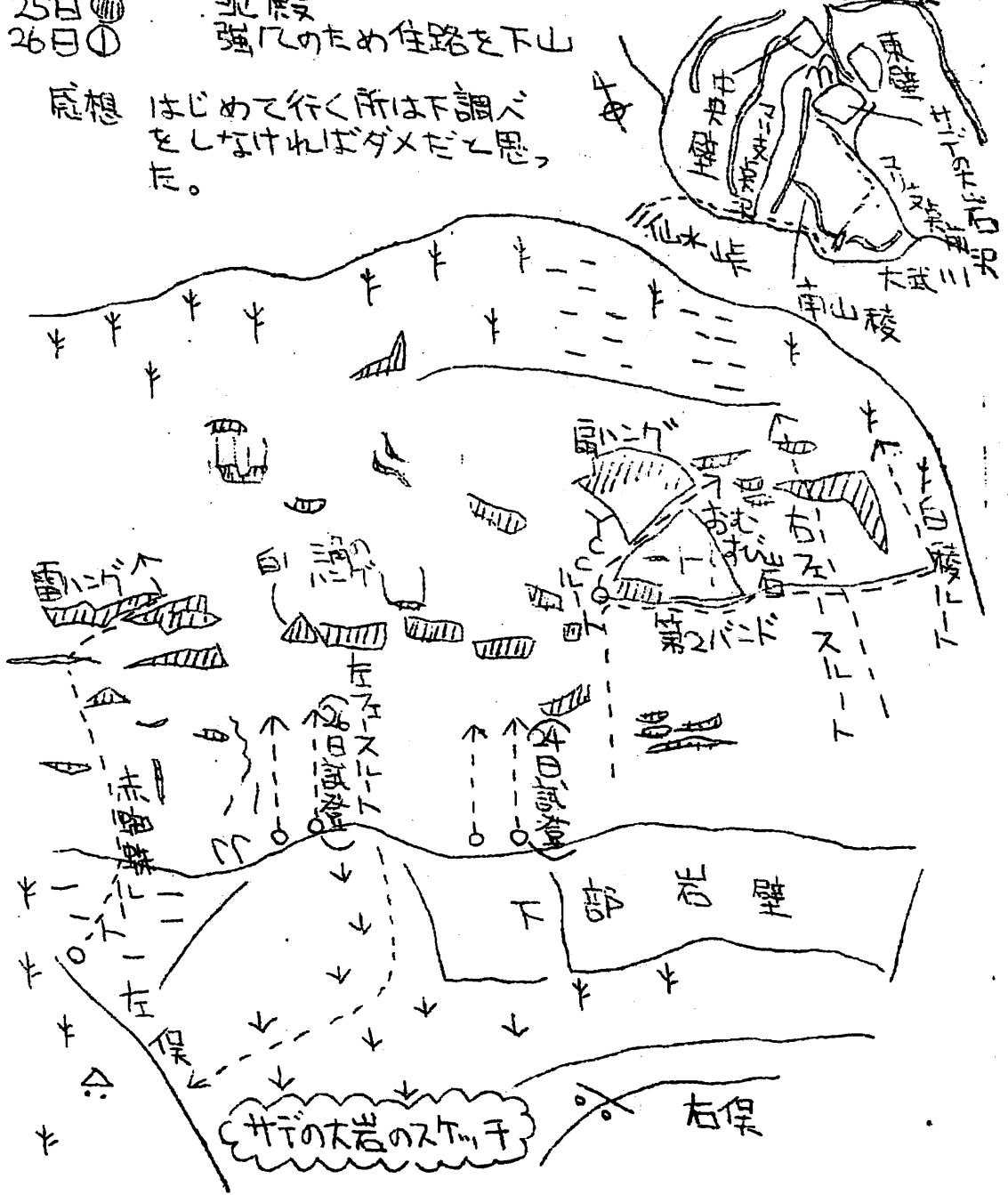
甲斐駒ヶ岳 摩利支点

上、加藤 壽章、田村 潔 10/24 - 10/26

24日 ① イナ → 北沢峠 → 仙水峠 → サテの大岩第一バンド
 9:20 10:00 1:10

25日 ② 遊殿
 26日 ③ 強厄のため住路を下山

感想 はじめて行く所は下調べ
 をしなければダメだと思っ
 た。



甲斐駒ヶ岳・赤石沢奥壁左ルンセ

Member (L) 加藤 喜章, 保科 奥

10/10 ◎ ~ ● 伊那 ^山 北沢峠 ~ 仙木峠 ~ 駒ヶ岳 ~
八合目岩小屋

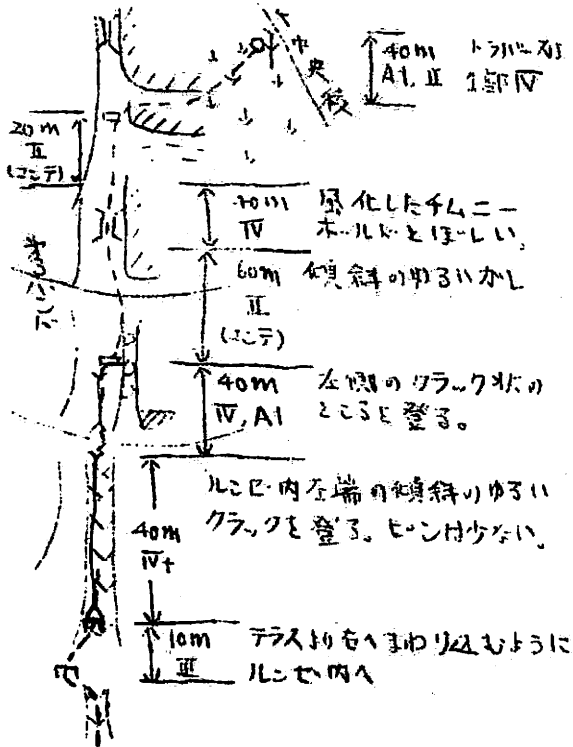
10/11 ◎ ~ ● T.S. ~ 取付 (左ルンセ) ~ 終了点 (中央稜) ~
6:00 6:10 14:00
6:40
稜線 ~ T.S.
16:00 15:30

10/12 ● 光殿

10/13 ● 入山時と同ルートで下山

〔ルート図〕

* 6Pich目までは日本の岩場と同様



〔記録〕

八合目岩小屋より、フラスコ、A、Bとる本登る予定が、天候のため左ルンセのみになりました。左ルンセは岩も堅く快適な好ルート。ただし上部は風化により、岩の表面がホロホロしている。中央稜へは左のルート図のやや下のスラフからも抜けられる。中央稜のルートはほとんど右ルンセよりで、間違えるとIVの岩場かててきてややてこずる。八合目での氷場はオ1バンドの左ルンセで得た。

by Hoshina

唐沢岳幕岩雪見山行

期日 10月25日～27日

メンバー L 山本 川原

10月25日 ◎時々● 松本^{15:30}＝七倉^{17:00}－大町宿
小雨まじりの天候の中、大町の宿へ入る。
先に1 party きていた。

1 26日 吹雪 B.P ⇄ 島山ルート
ツクを出して島山に取付くが、所々凍って
1Pで宿に戻る。レンゼや草付が凍って白
くなっている。
昼すぎ大洞穴ハンクへ遊むに行くが、アプ
ザイレンできるかどうかめがらなし。洞穴
に入るトラバースも悪そうなので、なにより寒い
のでやめ。
山麓ルートもしっかり氷がついている。まるで
冬山みたい。

27日 ◎ (下界①) 大町宿^{11:30}－七倉^{13:15}＝松本

どうせアかんやろと思いつつおきたら、やっぱり吹雪。幕岩の雪はほとんど落ち、凍った所が白くまわっている。しがたなく下山。

感想) 「ほんま、何しに行ったんや」

「あー、退屈やまおー」

ガ、ガ、ピーピー
ピ、ピ、ピ、ピ

「... を 終 り ま す。」

ガガガ

「... 降れ 降れ ー 月...」
も、と 降れ ー 月...

沈黙

丸山東壁：中央壁緑ルート

Member: (1) 師田 岩村 保科

10/24 ◎/● 松本 = 肩次 = 黒四ガム ~ 取付 ~ 中央ハント
 8:00 9:10 15:00
 9:46

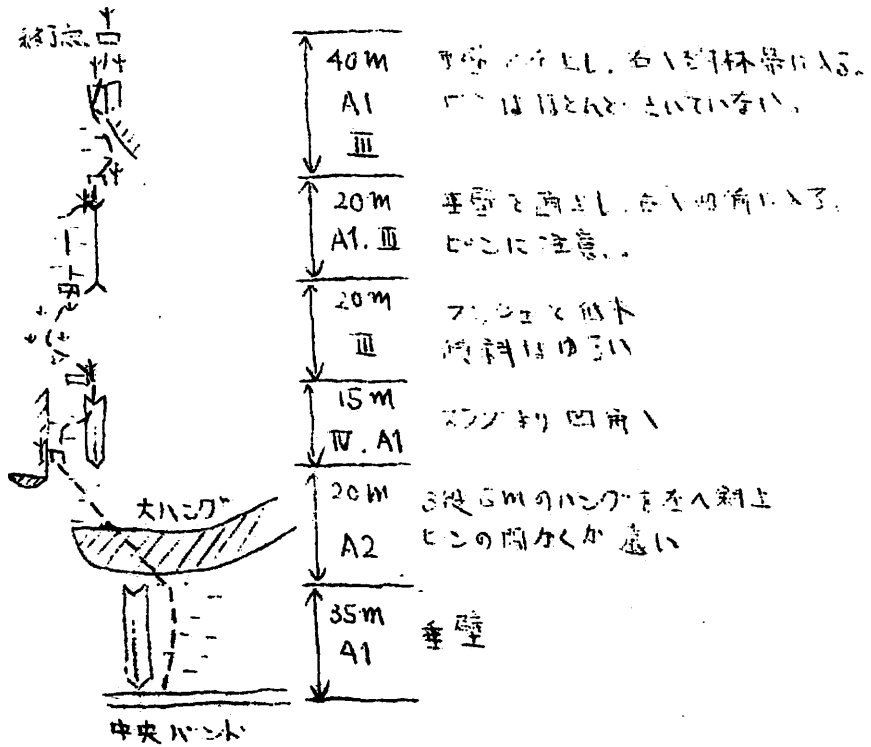
10/25 ◎/● B.P. ~ 終了点 ~ B.P.
 7:30 17:10

10/26 ⊗ B.P. ~ 丸山頂上 ~ 内蔵ノル平 ~ 黒四ガム = 松本
 6:30 8:10 10:10

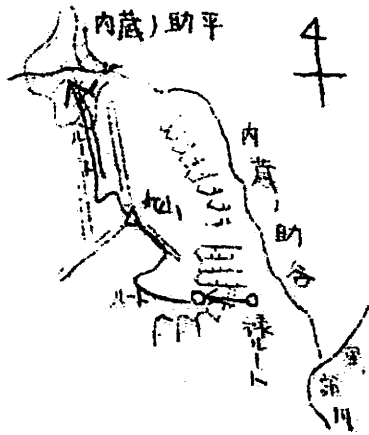
(ルート図)

* 中央ハントまでだけ『日本の岩場』 by R.C.C. II と同様

(注: L 1 Pick目は IV. A1, フリーで V は十分にあると思われる)



(下山路)



終了点から頂上までの道は極めて、不明瞭で、終了点より北側は岩壁なので、南側へかなり回り込まなくてはならない。少しづつ登り気味にトラバースしていくと、小さな池があり、その右側を登るとじきに尾根へ出る。あとは尾根をつたいに頂上へ。頂上からは北の道跡が2本あるが、東側のものは途中で消えて、下部で岩壁に突き当たる。西側のものは、池へ入るか、北西の傾斜のゆるい下り出れば、沢合いに容易に内蔵助平に降りられる。

(記録)

緑ルートは中央バントまでは、ほぼ90°のきれいなスラックで、ホール、スタンスはほとんどなく、下に終始するが、ピンの間かくは狭く、ほとんどアブミと段目ごとくもので、極めて容易である。ホントは、やはり5mの太ハコでかなりピンの間かくは狭く、のびあかりがきつい。ハコの上は、きいてはいピンが多く、充分な注意が必要。下山路はほとんど踏み跡もないが、頂上より北西側へ降りる方が良かったらう。

(感想)

確保は狭いし、ピヤアブミピラーが多く、難しかった。このぐさのルートになると、3人で登るのは極めて台能率だと感じた。中央バントの岩小屋 (Hotel 丸い) はなかなか快適。

もうこのルート2度と来ないかな。

by Hoshina

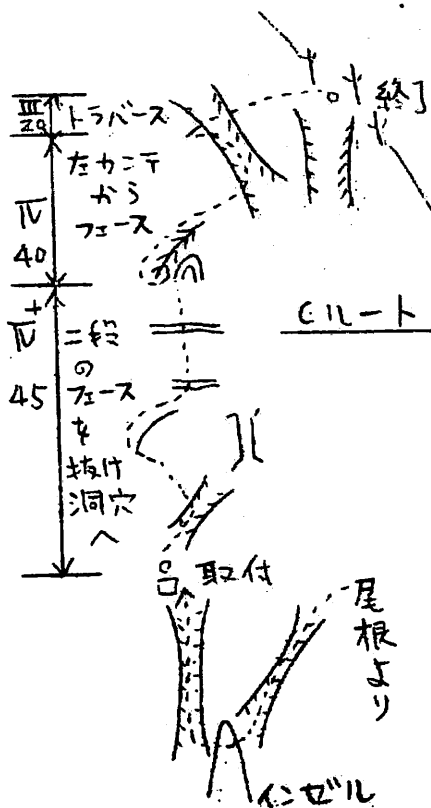
戸台川 幕岩 試登 SSS 11/1 ~ 11/2

L 川原修 (Ⅲ) 藤井卓也 (Ⅱ)

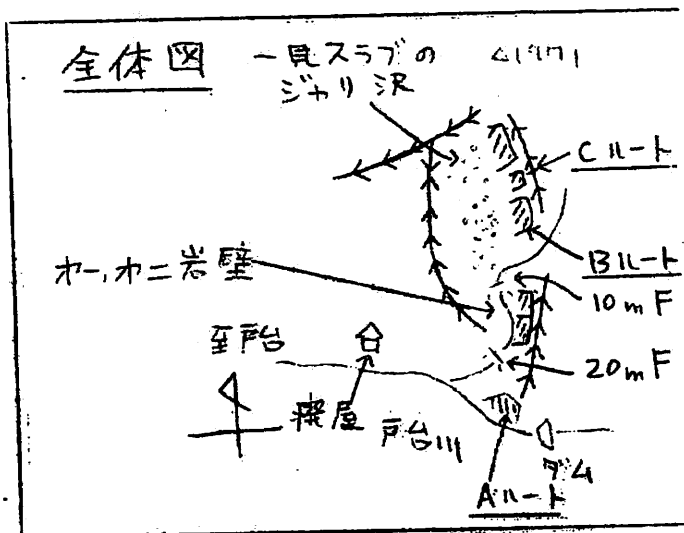
一日目に図の B、C、ルートも登り、左の屋根も全て小屋にもどる。
二日目に A ルートも登る。

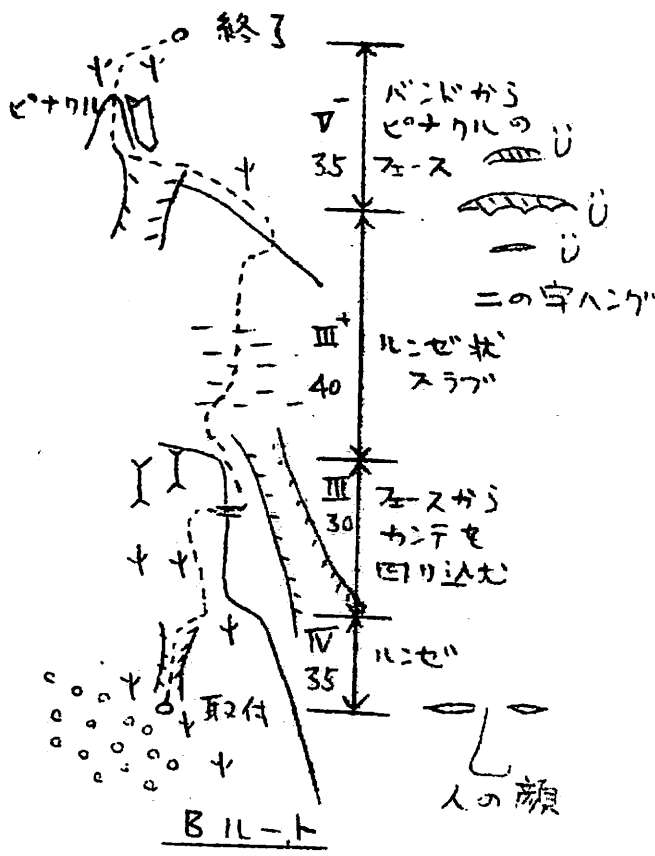
ピンは A ルートの 2 本を除けば無し。

オ-オニ岩壁はボルトが 50 本以上必要と思われるが、他は全体的に D 級のフリーを覚悟すればかなりの数を登れるようである。しかし余り価値はない。とにかくもろい箇所が多いのである。またハ-ケンは打ちにくい。

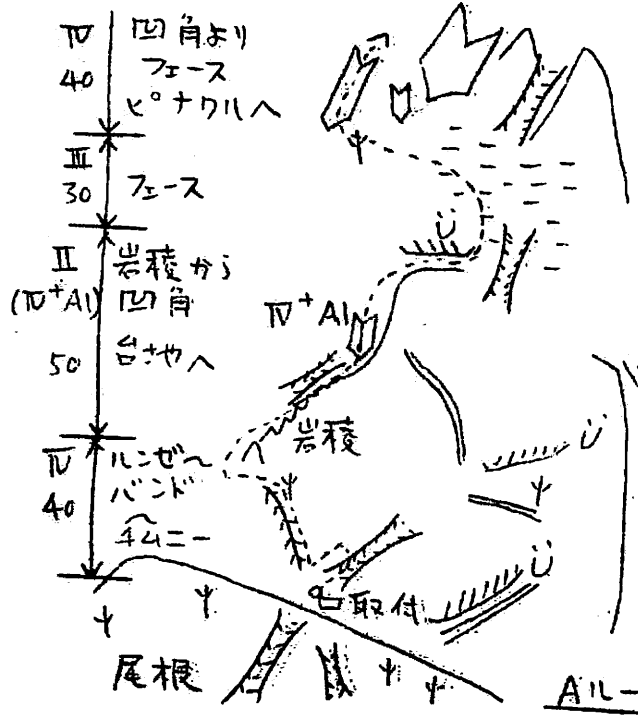


下降は B ルートと同じ

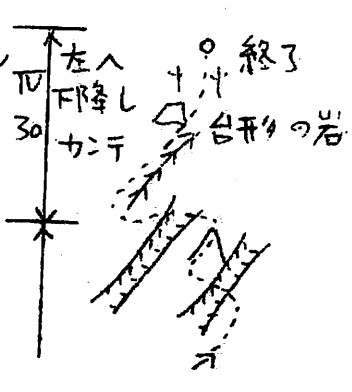




下降は終了点より少し登りルニセの左岸コンタクトを下る。



下降は20mFに至る不明確な尾根。途中カーブするので注意を要す。



★ 日月 星 山

(1) S55 11月8日 ~ 9日.

└ 加藤喜章 (IV) 藤井卓也 (II)

9日 ① P6 南壁 右フェース — 河原
(8:00 ~ 15:30) (20:00)

ルートは日本の岩場参照
ただし上部城塞はA2と
思われる。

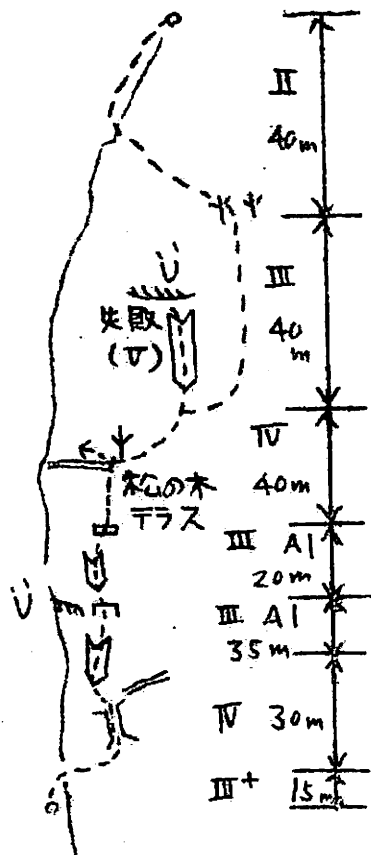
下降はP6まで行くのが面倒
だったので頭から直接降りたため
アツガイレンを擦り返し、お負け
に真暗だったので、非常に時間
が掛かった。
因みに10日は40分で下降。

[感想] 浮き石が全くなく、ピンは少ない
とは言え、比較的まいており、
また変化にとんだルートである。
満足した。ルートグレードは
5級と思われる。

(2) 10日
└ 加藤喜章 (IV), 石渡 (III), 藤井 (II)

細川 (I), 中根 (I), 沢田 (I)

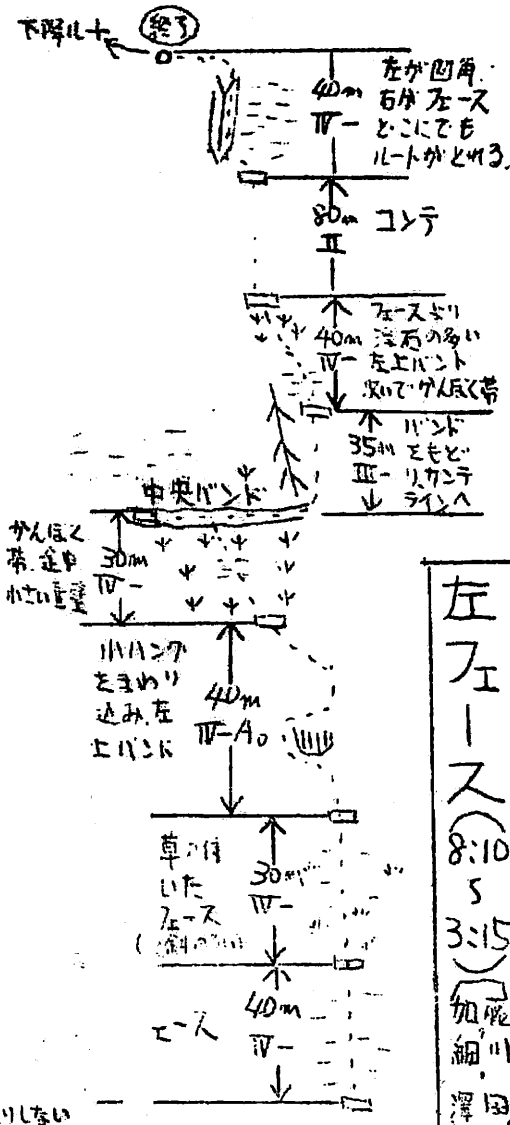
10日 左岩稜 (藤井, 石渡, 中根)
左フェース (加藤, 細川, 沢田)



左岩稜

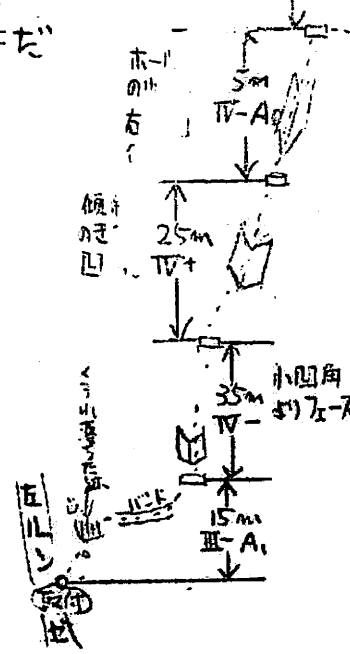
8:30 ~ 15:00.

6ピッチ目で上部凹角に入ったが、ハンカ下のトラスバーが、ピンが足りないため無理で下だ



左フェイス (8:10 ~ 5:15) 加藤川 澤田

はまりしないう下降ポイントよりスラッシュ (岩) 取れてハズ!



(感想)

ルートは長かったが、技術的にはあまりむずかしい所がなかった。しかし、高度感がものすごく十分、岩登りを楽しめた。 [細川]